

誠実に一生懸命!

直心

題字:長泉寺住職 後藤佑芳氏

県政だより

第60号(2018年4月)

静岡県議会議員

あつみ泰一



静岡県の新ビジョンを策定しました。

本年は、明治維新から150年の節目にあたります。また、明年には平成の世も改まり、新しい時代を迎えます。これまでの「東京一極時代」を総括するとともに、人口減少や高齢化など、立ちちはだかる大きな課題の克服に向けて、新しい国づくりを考える時を迎えております。こうした課題をしっかりと踏まえ、新しい10年に向け「世界から見た“ふじのくに”静岡県」という視点に立って、国内はもとより世界の中での静岡県の存在感を高め、さらに魅力ある地域づくりを進めるため、静岡県の新ビジョン富国有徳の「美しい“ふじのくに”」の人づくり・富づくりを、私たち議会も県と一緒に策定いたしました。

新しいビジョンが目指しているのは、居心地がよく、誰もが努力すれば人生の夢を実現し、幸せを実感できる地域社会の実現です。本県は地域資源にしても、人材にしても大変豊富であり、平成25年6月の富士山の世界遺産登録から現在までに、実に67件の世界レベルが認定されております。また、観光交流客数は、昨年度には1億5,000万人を超え、4年連続で過去最高を更新しました。今後、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技では、更に世界の注目が本県に集まります。

今正に、静岡県は、世界の桜舞台に立ちつつあると言えます。この機を逃さず、世界的な魅力に溢れた、美しい“ふじのくに”づくりに全力で邁進してまいります。

渥美 泰一

平成30年度当初予算と主要事業の概要 平成30年度一般会計歳出予算総額 1兆1,872億円

政令市への税源移譲を除く実質ベースで、前年度当初予算プラス64億円(0.5%)

新ビジョンをスタートダッシュで集中的に展開し、富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくりを本格始動させます。

命を守る安全な地域づくり

●南海トラフ地震に関する新たな防災対応の構築

国が、精度の高い予知は困難と言う立場から、これまでの「東海地震に関連する情報」に替えて、当面「南海トラフ地震に関連する情報」を発表することに対応した、新たな防災対応を作成します。

●「地震・津波アクションプログラム2013」の推進

策定から5年を迎え、10年の実施期間の折り返し地点となり、遅れているアクションは新たな目標を設定し、想定される犠牲者の8割減を目指します。

●住宅・建築物の耐震化

国が新たに創設する、国と地方の助成により、1戸当たり100万円を支援する制度を活用し、住宅の耐震化率を現在の82.4%から95%の目標達成を目指します。

安心して暮らせる医療・福祉の充実

●安心医療の確保・充実と健康寿命の延伸

●医師の確保

「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」の運営により、現在192人の医学修学研修資金利用者が、県内の病院に従事しており、引き続き医師の確保と偏在の解消を図ります。

●看護職員の確保

質の高い看護教育への支援、勤務環境の改善、潜在看護職員の再就職支援などにより、看護職員の育成と確保に取り組みます。

●助産師の確保

東部看護専門学校助産師養成過程の平成31年4月開設に向けて準備を進めます。

●健康寿命の更なる延伸

「社会健康医学研究推進基本計画」が策定され、平成30年度から研究に着手し、その成果を県民の健康寿命の延伸につなげます。

●地域で支え合う長寿社会づくり

団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、医療、介護、生活支援などのサービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を構築します。

子どもが健やかに学び育つ社会の形成

●こども医療費助成の拡充

子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、全国に先駆けて、中学生まで対象にしている医療費助成を、10月から18歳まで拡大します。

●すべての子どもが大切にされる社会づくり

生活困窮世帯の子どもを対象にした、生活習慣の改善、ものづくり体験などの取り組みを高校生世代まで拡大し、子どもたちの自立を支援します。

●魅力ある学校づくり

●「技芸を磨く実学の奨励」

公立高校において、企業で即戦力となる人材育成のために、専門性の充実とともに、スポーツ科、演劇科、観光科などの新しい専門科の設置を研究します。

●ICTを活用した教育の充実

次期学習指導要領に掲げる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め

るため、教員のICT活用指導力を向上するとともに、全県立学校に無線LANアクセスポイントを導入します。

●特別支援学校の教育環境の充実

施設の狭隘化や長時間の通学を解消するために、旧気賀高校跡地に本校及び高等部分校を3年後をめどに整備します。また来年夏までに、全ての普通教室に空調設備を設置します。

誰もが活躍できる社会の実現

●次世代人材の確保・育成

多くの産業分野で人材が不足しているため、「産業人材確保・育成プラン」を策定し官民を挙げて取り組みます。また、首都圏からのU・ターン就職の相談体制を強化します。

●技術専門学校の改編

沼津技術専門学校及び清水技術専門学校を統合して短期大学化することとし、3年後の開校を目指し、次世代自動車など産業構造の変化にも対応できる、専門的知識を持つ現場のリーダーを育成します。

●女性が活躍できる環境づくり

社会経済の活力を維持向上させるため、最大の潜在力である女性の持つ力が発揮でき、男女がともに暮らしやすい社会づくりを目指します。

富をつくる産業の展開

●EV化や自動運転などの急速な技術革新への対応

自動車メーカーや県内部品メーカー、国、大学の専門家で構成する研究会を新たに設置し、産業構造の変化に対応する自動車産業等への支援を強化します。

●航空宇宙分野への参入

ブラジル航空技術大学及び航空機メーカーのエンブラエル社との連携を進め、航空機産業の人材育成や県内企業の海外でのビジネス創出につなげます。また、静岡エアコミュニティ(株)が世界的なヘリコプターメーカーのイタリア・レオナルドヘリコプターズと業務提携し、静岡空港西側に整備拠点を設置します。

●中小企業の経営力向上支援

経営革新に取り組む中小企業に対して、従来の新商品開発や販路開拓に加え、生産性向上や、ITの活用など経営力の強化への取り組みを強力に支援します。

●農林水産業の競争力の強化

質の高い農林水産物の生産拡大や、人づくり、農山漁村の再生に取り組みます。農地局を交通基盤部から経済産業部に移管し、生産基盤の整備から農業経営体の育成までを一体的に推進する体制を構築します。

農業

A01-PARKを拠点として、オープンイノベーションによる飛躍的な生産性向上とビジネス展開を促進します。担い手を育成する農林大学校を、2年後を目途に「(仮称)農林環境専門職大学」とし、農林業経営に革新を起こす人材を育成します。

林業

県産材の需要と供給を一体的に創造する取り組みを一層促進し、主伐から再造林までを一体として行う体制を構築します。世界基準の認証林の拡大と認証材の供給体制を整備し、本県林業の成長産業化を加速します。

水産業

高度な衛生管理が可能となる荷さばき施設などの整備を促進するなど、高品質な地場水産物を県内に流通させる体制を構築します。

裏面へ続く▶

多彩なライフスタイルの提案

●「ふじのくに」のフロンティアを拓く取り組み

これまでの「内陸のフロンティア」を拓く取り組みによって、84の事業が実現しつつあり、これらの継続と併せて、本年度から5年間の第2期基本計画の早期完成を促し、多彩なライフスタイルが実現できる圏域づくりを進めます。

●「茶の都」づくり

島田市に「ふじのくに茶の都ミュージアム」が開館し、ここを拠点に日本の茶から世界の茶まで、茶にまつわる歴史、文化、産業などの情報集積と、本県ならではのお茶を楽しむライフスタイルを、国内外にその魅力を発信します。

“ふじのくに”の魅力の向上と発信

●東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて

自転車競技のトラック競技が伊豆ベロドロームで、マウンテンバイクが伊豆マウンテンバイクコースで、ロードレースのゴールが富士スピードウェイに、個人タイムトライアルが富士スピードウェイで開催されます。会場及びアクセス道路の整備、輸送、セキュリティ対策に万全を期します。

●サイクルスポーツの県づくり

オリンピック・パラリンピックを機に、サイクルスポーツの県づくりを進めます。既に東部・伊豆地域では、バイシクルピットの設置等を進めており、これを中部、西部地域に広げて行きます。

●ラグビーワールドカップ2019に向けて

エコパスタジアムでは、日本対アイルランド戦をはじめ4試合が開催されます。「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」という、大会キャッチフレーズのとおり、気運を盛り上げて行きます。

●東静岡駅南口に「文化力の拠点」を形成

県立図書館、レストラン、緑茶カフェ、グローバル人材を育成するための大学生の交流の場などを先行整備し、民間ノウハウを導入した宿泊施設や迎賓機能等の検討を進めます。

●富士山世界遺産センター

昨年の開館以降、県内外から多くの来館者が訪れており、楽しみながら富士山を学ぶことができる拠点として、子どもからお年寄りまで大変好評です。今後一層、富士山の保存管理・情報提供活動を展開していきます。

世界の人々との交流の拡大

●外国人観光客の誘致促進

我が国への旺盛なインバウンド需要を、さらに本県に取り込むために、「静岡ツーリズムビューロー」がかけ取り役となって、県内各地のDMO（観光地づくり法人）と連携しながら、旅行者のニーズに合った体験型旅行商品の開発を促進します。

●国内最大規模の観光企画「DESTINATIONキャンペーン」の本県開催

来年4月からの本開催を前に、本年4月からはプレキャンペーンが始まり、5月には『全国宣伝販売促進会議』を開催し、全国から参加する約800名の旅行会社の関係者に対して「ふじのくに」静岡の魅力でPRします。

●県産品の輸出拡大

「輸出促進サポートチーム」を設置し、県産品の輸出促進機能を担うプラットフォームを形成します。また、販路拡大の可能性の高い台湾に「通商エキスパート」を設置し、支援体制を強化します。

●富士山静岡空港の空港機能と利便性向上

旅客ターミナルビルの増築・改修が10月には完成し、国際線の受け入れ便数が、現在の1時間に1本が1時間に3本になり、また、飲食・物販面積が現状の3倍になります。4月から新たに新線が毎日運行します。引き続き、一層の利用拡大と路線の開拓に努めます。

●清水港におけるクルーズ船の誘致

昨年清水港を訪れたクルーズ客は、前年の2.8倍に急増し5万人を突破。更なる拡大を目指し、寄港地観光コースを造成します。また、アジア最大のクルーズ船社であるゲンティン香港と連携し、「国際クルーズ拠点」の形成を目指します。

視察関係

議会や委員会などの開催がない時期は、先進事例の視察・調査を行い、県政の諸課題の解決や発展に活かしております。



関西電力高浜原子力発電所を視察

(福井県大飯郡高浜町)

高浜原発は、1号機から4号機までの内、3、4号機は昨年6月と5月にそれぞれ再稼働し、1・2号機については定期検査中である。構内視察では、取水口防潮ゲート、防火帯設置状況、大容量ポンプ設備、竜巻防護対策、可搬式代替電源等を視察し、使用済み燃料の処理状況、テロ・サイバー対策、事故等の初動体制を調査した。

京都府警察本部「ストーカー相談支援センター」を視察

京都府警は、平成29年11月にストーカーに特化した相談機関を全国で初めて設置した。加害者を対象にしたカウンセリング支援により、ストーカーに発展する前の段階から、再発防止に至るまで一貫して支援する。女性警察官を常駐させ、悩みを打ち明けやすい環境を整備している。

大阪府箕面市における年功序列を廃止した人事給与制度を視察

●これまでの年功序列による弊害を解消し、責任に応じた処遇が得られ、頑張る職員が報われる制度へ改善した。
●所属長1人の評価による客観性の欠如を、多くの職員が評価する「多面評価」と客観的な評価調整プロセスにより、納得性を高め職員の成長やモチベーション向上につながる制度に改革した。

滋賀県長浜市の「黒壁」と「商店街」と「まちづくり役場」を視察

長浜は第三セクター「黒壁」が、旧商店街の古建築を保存し、美術館、ガラスショップ、工房、カフェ、レストランなどに再生、活性化に成功し、多くの来訪者で賑わっている。「まちづくり役場」は、この商店街の情報発信の拠点として設立されたNPO法人で、数人のスタッフが年中無休で活躍している。



渥美が会長を務める男女共同参画推進議員連盟で視察

■加和太建設(株) 三島市
建設業という女性の少ない分野で、現場員を含む多くの女性を採用し、会社の運営に女性の感性や視点を活かしており、休暇・休業制度についても時間単位の取得を可能とするなど、ワークライフバランスに配慮している。

■(株)三光ダイカスト工業所 三島市
製造業の分野で、数少ない自動車部品製造会社の女社長で、新製品の開発を、女性の視点と地域の女性クリエーターとの共同作業により、スチームパンクアクセサリ製作という新規事業を起し成功した。



道の駅「もつくる新城」を視察

新東名高速道路新城IC出口に設置された道の駅で、年間160万人が訪れる。周辺で捕獲されるシカやイノシシを使ったジビエ料理、猪ラーメン、鹿カレーが人気。また、地元の農家や長野県から調達する野菜や、それらを材料にしたパン、サンドイッチ、ケーキも土産物としてよく売れている。ここは新規規格のETC2.0を取り付けた自動車であれば、一時東名を出て利用可能である。



静岡県議会議員 **あつみ泰一事務所**

〒434-0027 浜松市浜北区油一色132-1
TEL.053-585-1313
FAX.053-586-6155

私の県政活動をご覧ください。県政へのご意見をお寄せください。
ホームページ ■ <http://www.atsumi-t.com/>
Eメール ■ atsumi-t@mail.wbs.ne.jp

「あつみ泰一HPサイト」をご覧ください。

携帯カメラでQRコードを撮っていただければ、あつみ泰一のホームページにアクセスでき、県政への取り組みや話題がご覧いただけます。

